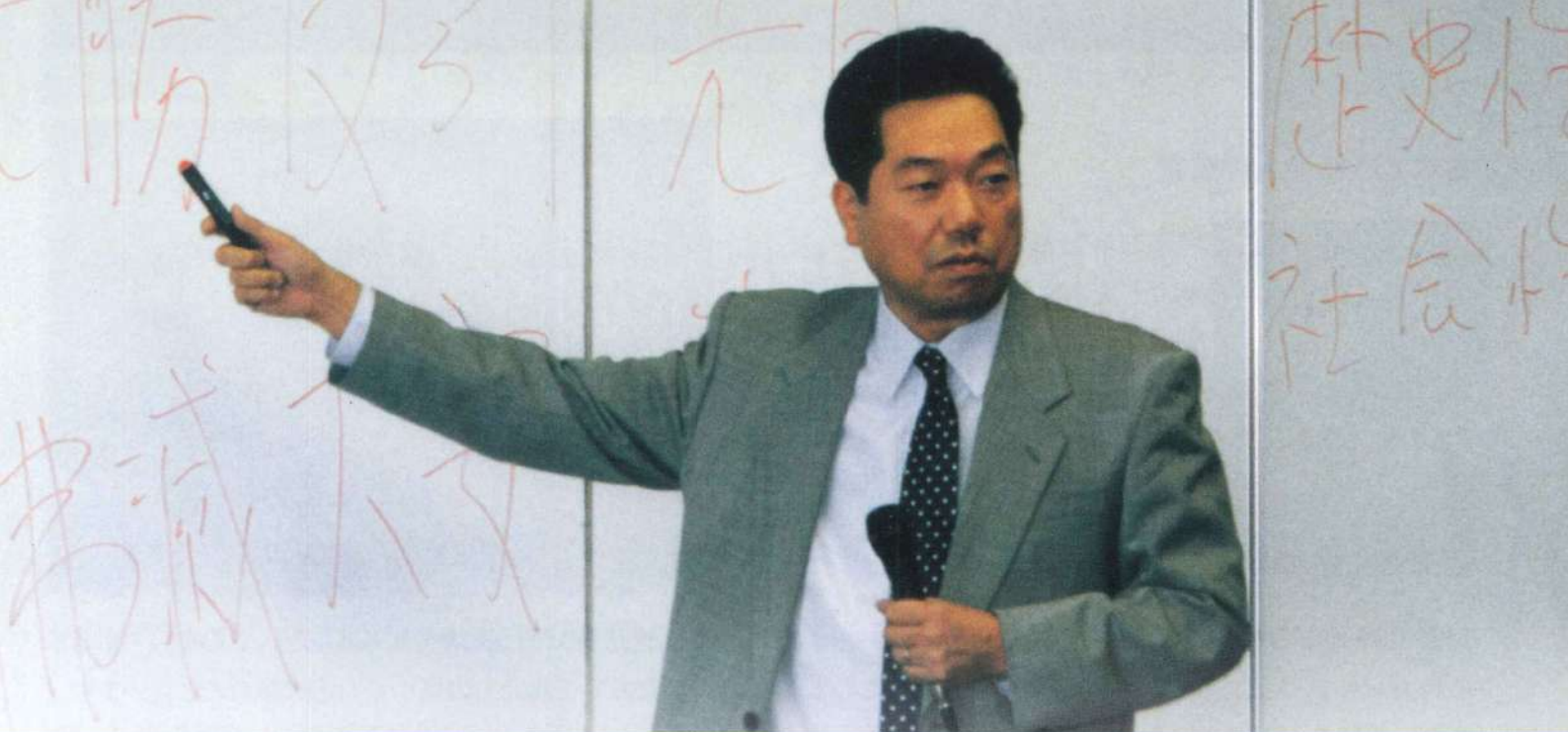




「部落の心を伝えたい」ビデオシリーズ(第4巻)

人の世に熱と光を

——水平の渴仰者 西光寺・清原隆宣——



21世紀の人権文化の思想的原点である『水平社宣言』。
その精神を清原隆宣さんは、
ズバリ「水平のものさし」の見直しという。
人は何故、平等になれないのか。
人は何故、尊敬し合えないのか。
西光万吉の系譜を引く清原隆宣さんを通して、
『水平社宣言』の核心を描いた
画期的ノンフィクション作品。

2001年9月完成／26分作品

ライブラリー価格 50,000円＋税

好評シリーズ
(既刊)

第1巻



第2巻



第3巻



日本で最初の人権宣言

「全国に散在する吾が特殊部落民よ、団結せよ」

1922年、西光万吉が起草した水平社宣言は、日本で最初の人権宣言と言われています。宣言は、人間の尊厳を高らかに謳い上げ、最後にこう結んでいます。

「人の世に熱あれ、人間に光あれ」

西光寺に生まれる

奈良県御所市。住井すゑの大河小説「橋のない川」の舞台にもなったところです。清原隆宣さんは、このまちの一角にある西光寺に生まれました。西光寺は、水平社宣言を起草した西光万吉こと清原一隆の生家であり、清原さんは西光万吉の弟の孫にあたります。



水平社発祥の地であるこのムラは今、人権のふるさととして全国各地から大勢の人たちが訪れています。人の世に熱と光を求めた西光万吉の人間への信頼——その思いを清原さんは現代を生きる多くの人たちに伝えていきたいと考えています。この日、三重県の中学校から3年生57人がやってきました。清原さんは、なぜ、それぞれの個性を大切にしなければならないか、やさしく語りかけます。

忘れられない体験

清原さんは大学卒業後、大阪の中学校を経て、御所市内の同和地区を校区にもつ中学校へ赴任しました。ここで、生涯忘れられない体験をします。

1983年、生徒の不登校や非行が相次ぎ、学校は異例



の休校措置で問題に取り組みました。このとき、清原さんは初めて子供たちの傷ついた心に触れたと言います。1991年、娘さんが通う中学校で起きた差別事件は、娘さんを巻き込み、清原さんにとっても辛い経験となりました。しかし、娘さんたち「部落解放研究会」が解決方法を求めて話し合いを重ね、そのとき娘さんのとった行動に、清原さんは心から感動したと言います。それは水平社宣言の精神をそこに見たからです。

水平社博物館



はすでに10万人を超えています。

1998年、西光万吉ゆかりのこの地に、水平社博物館が生まれました。

水平社にまつわる資料5万点を集め、部落解放に向けて闘った人々の熱い思いを伝えます。人権文化が静かな広がりを見せる中、入館者

水平の渴仰者

清原さんは現在、全国各地で講演活動が続いています。世間の間違ったものさしを正し、人間は平等であるという水平のものさしを広めたい——水平の渴仰者として、人の世の熱と光を語り続けます。

